

研究主題

自分の言葉で表現しながら、ともに学ぶ神の倉の子

主題設定の理由

神の倉小学校の子どもたちは、素直な子どもが多く、学習課題に真面目に取り組もうとする。学習のめあてについて、よく考え、理解しようと意欲的に学習することができる。

これまでの3年間、算数科の学習を通して、様々な表現活動を行う中で考える力を育む取り組みを行ってきた。その結果、それぞれの発達段階に応じた表現方法を用い、筋道立てて考えることができるようになってきた。また、考えたことを表現し合う学習にも取り組み、互いの考えを交流し、共有し合うことができるようになってきた。

けれども、一人一人の子どもをよく見ると、自分なりの明確な考えがもてない子がいたり、みなが同じような考え方をして考えの多様性が見られなかったりする面もある。また、自分の考えをうまく表現することができないため、表現することに自信がもてずに消極的になる子も見られる。

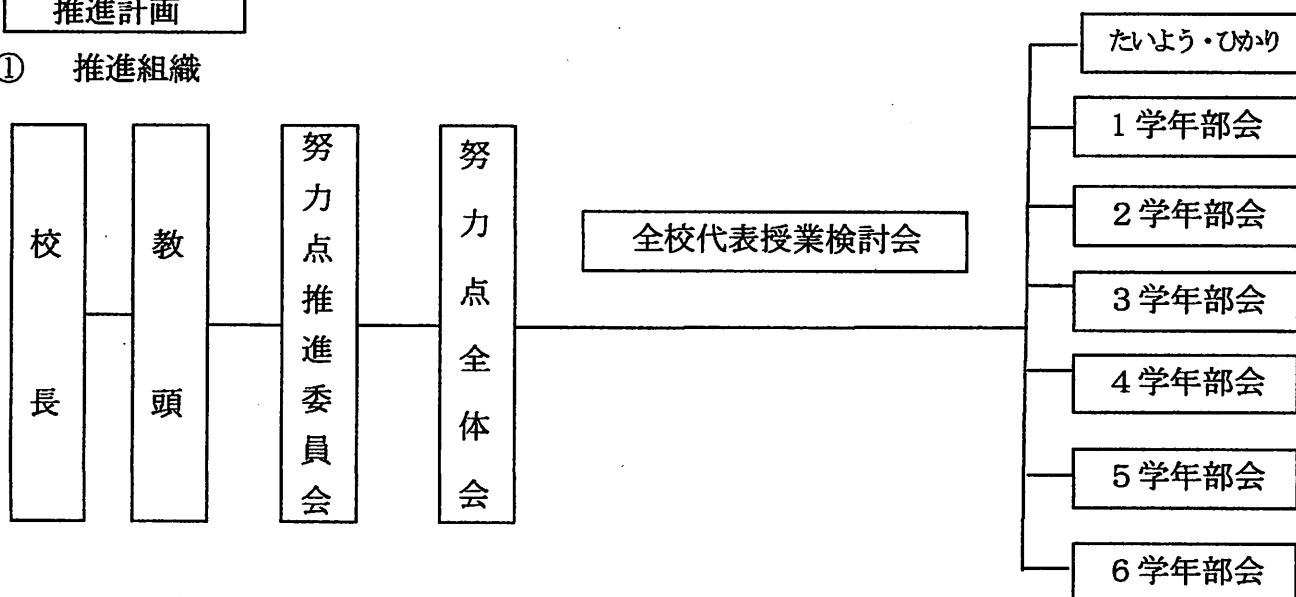
こうした子どもに対しては、思考・表現する上で必要となる語彙を豊かにすることで、自分の考えを明確にし、それを自分なりの言葉で分かりやすく表現できるようになると考える。また、仲間との対話において、相手の考えをよりよく理解したり、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながると考える。

そこで、本年度は、語彙力・表現力を高め、一人一人の子どもが自分の考えを明確にし、自分なりの言葉で生き生きと表現できるようにしていきたい。また、仲間との対話の中で、互いの考えを交流し、ともに学び合うことができるようにいきたい。

1年次：自分の考えをもったり、よりよい対話ができるようにしたりするために、語彙力・表現力を高める指導に力を入れる。

推進計画

① 推進組織



※ 推進委員会

- ・ 教務、校務、各学年代表推進委員で構成する。
- ・ 研究推進計画の検討や共通理解を図るとともに、研究・実践における各部会の連絡や調整を行う。

※ 全体会

- ・ 全職員で構成する。
- ・ 目標達成のために、推進計画、推進方法、各学年・学級ごとの実践について意見交換をし、研究推進の共通理解を図るとともに研究の方向を確認する。

② 研究の方法

ア 自ら考え、表現し、活用する力を育むために、学年ごとに目指す子ども像を設定する。また、目指す子ども像の実現に向けての指導の重点を考える。（指導方法・手だて等）

イ 自ら考え、表現し、活用する力を高めるための指導の工夫をする。

ウ 各学年部会で授業実践の事前・事後検討及びまとめを行う。

＜授業実践への取り組み方＞

- 各学年部会で、年間の実践計画を立てる。年間を通して、各学年で前期1実践、後期1実践の合計2実践を行う。前後期2実践のうち、1実践を公開授業とする。
- 計画した単元・題材の授業案を、各学年部会全員で立案し、検討する。その授業案で学年全員が授業を行い、そのうち1人を公開授業の対象とし、各学年1実践、年間7実践を行う（前後期3～4実践ずつ行えるように時期を調整する）。1実践の中で、公開する部分を限定してもよい（授業案は1実践分で立て、公開する部分を明示する）。
- 公開授業については、1年から6年、たいよう・ひかりの教師で参観できるように、参観者を学年ごとに調整する。
- 公開授業7実践の中の1つを全校代表授業とする。全校代表授業は、1実践分を公開し、全員で参観する。

事前・事後検討会は、全員で、単元における指導計画や手だてについて、その有効性を検討する。

③ 授業実践の内容

ア 目指す子ども像の検討

本単元における目指す子ども像を具体的にとらえる。

イ 実態の把握

観察、意識調査、授業内の評価等を通して実態をつかむ。

ウ 実践計画の立案・実践

具体的なねらいを定め、ねらいに迫るための有効な手だてを考え、実践する。

「語彙力・表現力を高める」とは

- ・ 意味を理解し、自分で使うことができる言葉のバリエーションを増やす。
- ・ その中から、自分の考えや気持ちを表すために適切な言葉をチョイスし、正しく使うことができるようにする。
- ・ さらに、言葉の使い方を自分なりに工夫したり、オリジナルの表現を生み出したりすることができるようにする。